

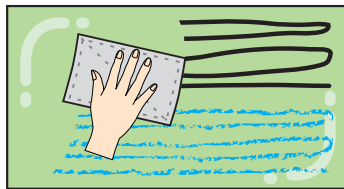
下地別 油性・水性ペンキ下地



1kg 入り

準備

- 下地の汚れを落とす。



- 塗装面にヒビ割れや粉が吹いている場合は、サンダーやワイヤーブラシなどで塗装を落とす。

- **通気性のない壁紙は選ばない。**

ビニル壁紙の場合はエンボスの大きいものを選ぶ。フラットなものやフィルム加工されたものは通気性がなく施工はできない。

- マジックやクレヨンのは、後で壁紙の表面に浮き出てくる。

↓
クレーム。

- ハガレ・浮きの原因。

- 下地に吸い込みが無いので、壁紙に通気性がないと糊の水分の逃げ場所が無く、いつまでも糊が乾かない。

下地処理

- ・シーラー
- ・パテ

- **390 クリーン**を原液で全面に塗布。(多少硬い場合、2割以内の水で粘度を下げて使用)



完全に**乾燥**。



- 容量：1kg 入り
- 標準希釈：原液～2割希釈
- 施工可能面積：10㎡(1kg)

- 目安として指で塗膜をさわリ、指に390クリーンが付着しなければ乾燥したと考えて良い。

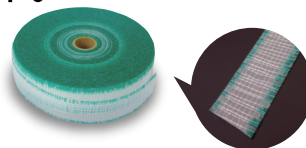
施工

- ・糊付け
- ・ジョイント

- 糊は**ウォールボンド 100**か**スーパーグルー 96α**。



- **ジョイントは突き付けが基本。**
重ね切りの場合、必ず**下敷きテープ**を使用。



- **ジョイントには必ず和紙のくいさきテープ**を入れる。



- 合成樹脂エマルションが入っていないと接着しにくい。
- ビニル壁紙以外の施工時は、壁紙にあった接着剤をウォールボンドシリーズから選択し、壁紙は通気性のあるモノを選択する。

- 390クリーンの塗膜を切ってしまうとそこから目開きを起こす。

- 下地に吸い込みが無く糊の乾きが遅い。
↓
壁紙の縮みの方が先に始まり目スキを起こす。

- 素材は和紙とし糊付けは避ける。
- 突き付けの場合、幅広(70mm)を先に下地に貼っておくとジョイントが楽に合わせられる。

施工後

- 急激な乾燥は避ける。

- 目スキの原因。